

同窓会の皆様、初めまして。本年度より、一般教科講師として奈良高専に参りました松井夏津紀と申します。授業は1年生の英語Iと異文化交流を担当し、校務分掌では学生委員会委員を務めております。奈良高専に着任する以前、2015年まではタイの大学で日本語を教えておりました。研究の専門分野は言語学です。

日本語を教えていた人が英語を教えることを不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、タイでタイ人に日本語を教えることも日本で英語を教えることも、「その言葉が話されていない場所である外国語を教える」という点が共通しています。外国人に日本語を教えることも日本人に英語を教えることもどちらも「外国語教育」で、私は「外国語教育」全般に興味を持っております。

留学をしてその国の言語を学ぶのではなく、自分の国で外国語を学び、習得することは難しいことです。日本人が日本で英語を学ぶことは難しいことですが、それでも「日本人は英語ができない」とよく言われることは英語教員としては残念な気持ちになることです。英語が得意な人たちが多い国というのは、実際、世界には多々存在します。しかし、それはその国の言語や環境によるものだったり、社会の一部の上位層の人たちによるものだったりします。平均的な日本人は、ある程度英語を理解していると思われま。ただ、それを使用することに慣れていない人が多いのも事実です。いかに英語の知識を持っているかではなく、いかに実践で使えるかが社会人に出てからは問題となってきます。高専生の場合も知識はあるけどなかなか使えないという学生が多いと思いますので、英語を使うことに慣れてもらうことが私の課題の一つであるかと思っております。

英語に限らず外国語を習得することは、自分の世界を広げることに簡単につながるのだと思います。世界が広がれば人生の選択肢の幅も広がってきますし、楽しみも多くなると思います。今後、このことをできるだけ高専生のみなさんに伝えていくことができるように、私自身も頑張っていきたいと思っております。それでは、今後もよろしくお願い致します。